



2025年度
神奈川芸術文化財団
社会連携ポータル課
活動報告書

社会と芸術をつなぐ

公益財団法人
神奈川芸術文化財団

編集・発行:公益財団法人神奈川芸術文化財団社会連携ポータル課
住所:〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町252 グランベル横浜ビル8階
電話:045-222-0553
FAX:045-641-3184
メール:renkei@kanagawa-af.org

デザイン:エーティーブランド株式会社
デザイン協力:イラストレーター アカネッコ
発行日:2026年9月

神奈川県民ホール
Kanagawa Kenmin Hall

木のホール
神奈川県立音楽堂
Kanagawa Prefectural Music Hall

KAAT 神奈川芸術劇場

個性、
舞台、
とことん
ぞくぞく。

ともに生きる、ともに創る
共生共創事業



4つのアプローチと共生共創事業

芸術文化を担う人材を育てる

「専門人材育成プログラム」

専門的な知識や技術の習得を通じて、芸術文化分野の将来を担う人材の育成を目指し、舞台芸術のための専門施設の特性を活かした講座やワークショップ、インターンなどを実施するとともに、大学との連携による施設見学やレクチャーや講義を行っています。

※ワークショップ:参加者が見るだけでなく、実際に体を動かしたり、考えたり、つくったりする体験型のプログラム

子どもたちと芸術文化をつなぐ

「学校教育へのアプローチ」

子どもたちと芸術文化をつなぎ、豊かな感性を育むために、学校でのアウトリーチや教員向け研修、教育機関を対象としたプログラムや施設見学の受入れなどを通して、芸術文化に触れる機会を提供しています。

※アウトリーチ:学校や地域、福祉施設などへアーティストが出向き、ワークショップや交流を通して、芸術文化に触れる機会を創出する取組

感動を分かち合うための

「インクルーシブアプローチ」

年齢や障害の有無などにかかわらず、あらゆる人が芸術文化に親しんでいただけるように、芸術文化を届ける鑑賞サポートの実施や、鑑賞機会の少ない子どもたちへの公演のご招待を行っています。

芸術文化でつながる

「地域との連携づくり」

より多くの方々が芸術文化に親しみ、楽しめるよう、周辺地域や県内の文化施設との連携や、全国の芸術文化団体との交流などを通じて、広域的な連携・協力の関係づくりを進めています。

施設に留まることなく、

神奈川県内のさまざまな場所に

芸術文化をお届けする活動を行っています。

私たちの役割は、社会と芸術をつなぐ窓口＝ポータルとして活動することです。さまざまな場所へ芸術文化を届け、より多くの方の身近に、そして、これからもっと楽しんでいただきたい！という思いから、神奈川芸術文化財団のミッション「創造に挑む」「感動を分かち合う」「つねに考える」「未来へつなぐ」を実現するための4つのアプローチと共生共創事業を通じて、社会と芸術文化の新しい関係を築いていきます。

ど
く
ぞ
く。
舞
台
性
、
個
性
、
と
こ
と
ん

ともに生きる ともに創る
共生共創事業

共生共創事業（神奈川県受託事業）

「ともに生きる ともに創る」を目標に、年齢や障害などにかかわらず、子どもから大人まですべての人が舞台芸術に参加し楽しめる神奈川県主催の事業です。

神奈川県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー（マグカル）の取組を推進しています。この取組の一環として、シニア劇団やシニアダンス企画の運営、障害者等が参加する公演等を実施し、共生社会の実現や未病改善を意識した魅力的なコンテンツの創出と発信を行うことで、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与することを目指しています。



専門人材育成プログラム

詳しくは
こちらから



舞台芸術・劇場運営の育成プログラム

KAAT 舞台技術講座（「実現するちから」を学ぶ 〜ヘアメイク編〜 / 制作者のための舞台技術講座）

2025/6/10(火)「実現するちから」を学ぶ 〜ヘアメイク編〜、2026/1/25(日)〜26(月)制作者のための舞台技術講座

舞台芸術分野で活躍している方や、創作の過程を学びたい方が、さらなるスキルアップや専門分野を超えた視野の拡大を目指して舞台技術を学ぶ「舞台技術講座」を開催しました。



制作者のための舞台技術講座

グリーンシアター・ワークショップ(第3回 / 第4回) 2025/6/21(土)第3回、2026/3/5(木)第4回

環境に配慮した舞台芸術の制作や施設運営を目指し、芸術文化における環境の持続可能性を考える「グリーンシアター・ワークショップ」を開催しました。



第4回グリーンシアター・ワークショップ

社会連携ポータル課人材育成講座（ピアレビュー講座） 2025/9/9(火)

文化施設の運営に必要な知識や考え方を学ぶ人材育成講座として、レビューの可能性について考える「ピアレビュー講座」を開催しました。

インターン

神奈川県立音楽堂&神奈川県民ホール 2025/8/19(火)〜29(金)

公立文化施設の制作に興味がある方を対象に、座学を中心とした子ども向けプログラムの企画をたてるグループワークを実施しました。

KAAT 神奈川芸術劇場（舞台技術コース / 劇場運営コース） 2026/1/28(水)〜2/12(木)舞台技術コース、2026/3/24(火)〜29(日)劇場運営コース

公立文化施設のあり方や、事業制作・劇場運営・広報営業、または舞台技術の基本的な業務について、座学を中心に学ぶプログラムを実施しました。

大学との連携による人材育成

玉川大学芸術学部演劇・舞踊学科 2025/6/7(土)、2025/11/22(土)

劇場接遇や舞台照明等に関するレクチャーをKAAT 神奈川芸術劇場で実施しました。

静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科 2025/10/30(木)

当財団の取組や劇場運営等に関するレクチャーや、施設見学を KAAT 神奈川芸術劇場で実施しました。

名古屋芸術大学芸術学部芸術学科舞台芸術領域 2025/11/13(木)

当財団の取組や劇場運営等に関するレクチャーや、施設見学を KAAT 神奈川芸術劇場で実施しました。

昭和音楽大学 2025/10/14(火)、2025/11/25(火)

寄付講座として、当財団職員が昭和音楽大学・大学院等の授業に出講し、劇場運営や事業等について講義を行いました。

INTERVIEW



KAAT 神奈川芸術劇場
ほりうち まひと
支配人 堀内 真人

ともに「未来を考える場」をつくる グリーンシアター・ワークショップが目指すもの

KAAT 神奈川芸術劇場では2024年から、舞台芸術と環境について考える「グリーンシアター・ワークショップ」を開催しています。開催に至ったきっかけは、イギリスで広がる「シアター・グリーン・ブック」という環境配慮のためのガイドラインについて、親交のある舞台美術家から話を伺ったことでした。特に印象に残ったのは、公共劇場が環境問題に取り組むことは、社会に対してサステナビリティについての問題意識を発信する力になり、また組織としては新たな価値観の共有を通じて組織の活性化につながるという考え方でした。

同ワークショップでは、環境問題についての知識を得るだけでなく、参加した方が「舞台芸術の分野では何ができるだろう」と話し合える場にしたいと考えています。そのため、前半はゲストにお話を伺い、後半は参加者同士でグループワークを行う構成にしています。参加者は、舞台芸術に携わる方だけでなく、学生や一般の方などさまざまです。

最近では、環境への取組を発信する劇場や団体も少しずつ増えてきました。そのためにもまずは歩みを止めず、続けていくことが大切だと考えています。

インタビュー全文は
こちらから



学校教育へのアプローチ

詳しくは
こちらから



社会見学 (東京都立中央ろう学校)

2026/3/10(火)

東京都立中央ろう学校の社会見学として、KAAT 神奈川芸術劇場の施設見学を実施しました。

担当者コメント

2025年10月に実施した手話通訳付きバックステージツアーの情報を知った先生から、劇場がどんな場所か、どのように働いているのか、を聴覚に障害のある生徒たちに知ってもらい、将来仕事に就くときの選択肢を広げる機会になればと、お問い合わせいただいたことをきっかけに実現しました。



夏季特別講座

(神奈川県立神奈川総合高等学校)

2025/7/29(火)〜31(木)、2025/8/8(金)、2025/10/20(月)

神奈川県立神奈川総合高等学校舞台芸術科の教育課程の一環として、KAAT 神奈川芸術劇場と神奈川県立神奈川総合高等学校において講座を実施しました。

アウトリーチ

子どものためのアウトリーチ (日本語支援拠点施設「ひまわり」)

2025/7/4(金)

横浜市の日本語教育施設「ひまわり」と協働し、横浜市在住の外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした生の音楽を体験するアウトリーチを行いました。

先生のためのアウトリーチ (研修会 / アウトリーチ)

2025/8/22(金)研修会、2025/11/19(水)アウトリーチ

特別支援学校の教員を主な対象に、神奈川県立音楽堂でのアウトリーチ研修会や、アーティストによるワークショップ型プログラムを体験するアウトリーチを行いました。

子どものためのアウトリーチ(日本語支援拠点施設「ひまわり」)



Photo:加藤 甫

来日したばかりの外国にルーツをもつ子どもたちが、初歩的な日本語や学校生活を集中的に学ぶ、横浜市の日本語支援拠点施設「ひまわり」(通称:ひまわり)で、サクソフォン四重奏のグループ「NOK Saxophone Quartet(ノック サクソフォン カルテット)」による言葉に頼らないワークショップと演奏鑑賞を行いました。

この取組は、社会連携ポータル課の役割の一つである、次代を担う子どもたちや若者への鑑賞・参加機会の提供と、あらゆる人が芸術文化に親しむためのインクルーシブな取組の一環として、ひまわりと連携し実施したものです。当日は、ネパール、フィリピン、中国、アメリカなど、さまざまなルーツをもつ

17名のひまわりに通う児童生徒と先生が参加しました。

プログラムは、生の音楽に触れる機会を提供するとともに、ただ鑑賞するだけでなく、手拍子をしたり身体を動かしたりしながら相互にコミュニケーションがとれる内容にしました。

実施にあたっては、ひまわりの先生にもリハーサルに立ち会ってもらい、「言葉は少なく、はっきり話す」「スクリーンに映し出す文字には教科書体のフォントを使う」といったアドバイスを受けながら内容を検討しました。また、アーティストが事前に授業見学を行うなど、子どもたちへの理解を深めながら準備を進めました。

参加した先生からは、「いつも以上に子どもたちが輝いていました」「音楽の大きな音量にびっくりする体験から、一緒に楽しむという流れで進めていただき、子どもたちは音楽を楽しく体験できたのではないかと思います」といった声が寄せられました。

音楽を通じて言葉や文化の違いを越えて交流する機会となるとともに、子どもたちやアーティスト、関係者にとっても学びの多い取組となりました。

ダイジェスト
映像は
こちらから



インクルーシブアプローチ

インクルーシブアプローチとは？

どなたでも芸術文化を安心して楽しんでいただけるよう、目のみえない・みえにくい方、耳のきこえない・きこえにくい方をはじめ、鑑賞に不安や困難を感じる方をサポートする取組を行っています。主催公演では、音声ガイドや字幕、鑑賞サポートグッズの貸出などさまざまなサポートを実施しています。また、提携公演や他施設・他劇場で行われる鑑賞サポートの取組にも協力しています。

※公演によって実施する鑑賞サポート内容は異なります。

詳しくは
こちらから



筆談ボード・コミュニケーションボード

文字やイラストを使って、会話をサポートする筆談ボードとコミュニケーションボードを受付に用意しています。



ヒアリングループ

人工内耳や補聴器をご使用の方などの「きこえ」を補助するヒアリングループを設置しています。



字幕

セリフなどをお手元でご覧いただける字幕機器の提供をしています。



鑑賞サポートグッズ

イヤーマフ・耳栓

大きな音や高音を抑えるイヤーマフと耳栓を貸出・提供しています。

サングラス

照明のまぶしさをやわらげるサングラスの貸出をしています。

フィジレット・トイ

触れることで気持ちが落ち着いたり集中しやすくなるアイテムです。

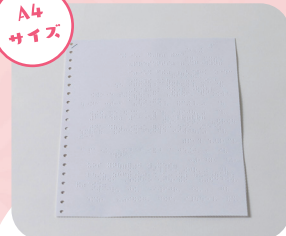
フリースペース

場内に一部自由席エリアを確保しています。自分の席で鑑賞することが難しくなってしまった時などに、誰でも自由に利用できます。

手話通訳

公演当日、受付に手話通訳者を配置し、チケット確認やご案内など、来場時のコミュニケーションをサポートしています。

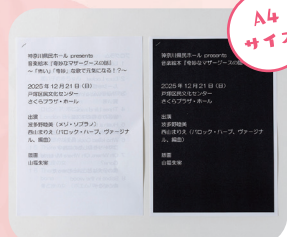
A4サイズ



点字プログラム/パンフレット

点字で作成した概要版のプログラムやパンフレットを提供しています。

A4サイズ

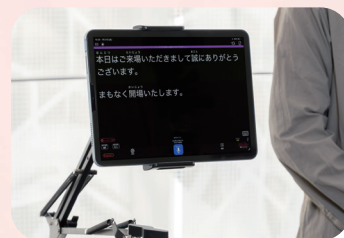


拡大文字プログラム/パンフレット

拡大文字で作成した概要版のプログラムやパンフレットを提供しています。白地に黒文字、黒地に白文字の2種があります。

音声ガイド

舞台上の様子や出演者の表情などをナレーターがリアルタイムで解説する音声ガイドを実施しています。



AIによる音声文字変換

スタッフの話した内容を文字で表示するタブレットを受付に用意しています。

上演台本

公演の当日に限り、上演台本の貸出をしています。



事前説明会

開場前に会場の様子や作品に関する情報をご紹介します。公演をより安心してお楽しみいただくための事前説明会です。

各施設での活動

県域展開事業(神奈川県民ホール)

神奈川県民ホール presents 「C × Organ パイプオルガンを訪ねる旅」

2025/8/2(土)横浜、2025/8/9(土)茅ヶ崎、2026/2/7(土)秦野



「C × Organ パイプオルガンを訪ねる旅」では、横浜・茅ヶ崎・秦野の各会場において鑑賞サポートを実施しました。本事業は、神奈川県民ホール オルガン・アドバイザー中田恵子による演奏と解説を通して、パイプオルガンの魅力を県内各地で紹介するコンサートです。

各会場の環境や参加者のニーズに合わせ、会場ごとに異なる鑑賞サポートを行いました。横浜公演では、夏休み期間中の開催で子どもの参加も多いことから、フィジレット・トイの貸出を実施しました。茅ヶ崎公演では、会場となった教会やパイプオルガンの位置関係を伝えるための触図を作成しました。秦野公演では、初めて来場する方にも安心して参加いただけるよう事前説明会を開催しました。そのほか、各会場で点字・拡大文字・白黒反転拡大文字プログラムの提供などを行いました。会場ごとの特性に合わせた工夫を重ねながら、さまざまな方が安心して鑑賞できる環境づくりに取り組みました。

担当者コメント

秦野聖ルカ教会にはじめて訪れた際に、建物とパイプオルガンとが調和する美しさ、洗練された空間に感動し、この場所でオルガン演奏を聴く特別感を伝えたい! と思い、事前説明会の実施の提案をしました。視覚的な情報を伝える趣旨ではありますが、説明に教会の歴史を織り交ぜることで、障害の有無に関わらず、オルガンコンサートをさらに楽しんでいただけるような工夫ができました。また来場者に鑑賞サポートの取組について知っていただける良い機会となったと感じています。

神奈川県立音楽堂

前川建築見学ツアー in 音楽堂 (手話通訳等の鑑賞サポート付き)

2026/2/17(火)



神奈川県立音楽堂では、前川國男設計の建築の魅力を紹介する「前川建築見学ツアー in 音楽堂」を通年で実施しています。2025年度は、そのうち1回を手話通訳等の鑑賞サポート付きツアーとして開催し、耳のきこえない・きこえにくい方をはじめ、より多くの方が参加しやすい環境を整えました。当日は、通常どおり複数のグループに分かれて館内を見学し、そのうち1グループに手話通訳を付けました。耳のきこえない・きこえにくい方が安心して参加できるよう、手話通訳に加え、希望者にはガイドの声を耳元に聞けるワイヤレスガイドイヤホンを貸し出しました。また、音楽堂ならではの音の響きを体験できるよう、参加者全員でピアノの音による響きを壁や床に触れて感じる時間を設けました。音を「聴く」だけでなく、身体全体で感じる機会をつくることで、音楽堂の魅力をより深く味わっていただきました。

担当者コメント

今回の取組では、音楽ホールとして、バリアフリーの視点から建築を見ていただくとともに、耳のきこえない・きこえにくい方にも響きを少しでも体感していただける機会を設けました。一方で、障害の程度や特性は多様であり、すべての方に当てはまる正解はないということも認識しました。今回の取組で得られた経験を踏まえながら、今後も音楽堂の魅力を伝え、継承していくための工夫や取組を重ねる必要性を感じます。

KAAT 神奈川芸術劇場

KAATキッズ・プログラム2025〈やさしい鑑賞会〉 『わたしたちをつなぐたび』

(2026/3/29(日))

詳しくは
こちらから



社会連携ポータル課は、KAAT 神奈川芸術劇場と協働して、2023 年度より3年間の研究事業「リラックスパフォーマンスを考える」に取り組みました。その最終年度の作品として、2025 年夏に上演した作品を、やさしい鑑賞会としてリクリエーションし上演しました。「やさしい鑑賞会」とは、知的障害・発達障害のある方も安心して鑑賞できるように環境を整えた公演の「リラックスパフォーマンス」と、障害の特性に合わせて情報保障を行う「鑑賞サポート」を組み合わせた公演の呼称として誕生したものです。年齢や障害の有無にかかわらず、観劇が初めての方も、さまざまな方が安心して、一緒に楽しめる環境づくりを目指しました。

上演中も照明は落とさずに明るい座席で鑑賞でき、出入りが自由です。声が出たり体が動いても大丈夫で、好きな場所・好きな体勢で見られる公演となりました。

やさしい鑑賞会での取組

前ページで紹介した鑑賞サポートのほか、右記のサポートも実施しました。

タッチ
ツアー

事前説明会

公演ガイド

ゆったり
エリア

カーム
ダウン
スペース

1. 上演前のサポート〈作品をよりお楽しみいただくために〉

- [目のみえない・みえにくい方対象] タッチツアー
- 手話ナビゲーターによる事前説明会(音声通訳付き)
- みる前に知って安心! 〈やさしい鑑賞会〉公演ガイドブック

2. 上演中のサポート〈耳のきこえない・きこえにくい方向け〉

- ポータブル字幕 ● 上演台本の事前貸出
- ヒアリングループエリア(受信機の貸出)

3. 上演中のサポート〈目のみえない・みえにくい方向け〉

- 音声ガイド ● 点字・拡大文字・白黒反転拡大文字のパンフレット

4. 会場でのいろいろなサポート

- ゆったりエリア ● カームダウンスペース ● 多目的トイレ
- 託児サービス(当日利用可) ● 看護師の常駐
- コミュニケーションボード ● 筆談ボード ● イヤーマフ、耳栓
- フィジエット・トイ ● サンダラス

目のみえない・
みえにくい方対象

タッチツアー

目のみえない・みえにくい方を対象に、開演前の客席で実施しました。舞台の距離や客席の配置を触図で紹介するとともに、舞台美術・小道具・衣装に実際に触れながら、耳で聴くだけでは想像しにくい舞台のスケール感や、小道具や衣装のディテールを体感いただくための取組です。



公演ガイドブック

劇場はどんな場所か、どんな演出があるのか、先の見通しが立たない状況に不安を感じられる方もいます。劇場や作品について事前に知ることによって安心して来場できるよう作成しました。会場の様子やスケジュール、作品の登場人物などについて紹介しています。事前に閲覧できるPDF版と、音声コードUni-Voice付きの印刷版を用意しました。



カームダウンスペース

落ち着きたいときや一人になりたい時に利用できるスペースです。外部からの音や光、視線などの刺激をやわらげる環境で、介助者の方も一緒に利用できるような広さや明るさを調整しました。



©HIROYUKI UENO LINKSOUL Inc.

新しい機材の導入 ～より良い音を客席どこでも～

音声ガイドでは、Bluetoothの最新技術を用いた「Auracast(オーラキャスト)」の機材を初めて活用しました。1対多で音声を同時配信でき、より良い音質で席を限定せずに届けることができるようになりました。今後の公演での導入に向け、準備を進めています。今後も、より多くの方が劇場に安心して足を運べ、作品を楽しめる取組を進めていきます。

公演当日の様子や
取組の詳細は、
社会連携ポータル課
noteをぜひご覧ください!



地域との連携づくり

アーツカウンシル・ネットワークミーティングへの参加

日本芸術文化振興会が主催する、全国の地域アーツカウンシル及びアーツカウンシル機能を有する団体が加盟するネットワーク組織のミーティング(第3回)に参加しました。「地域アーツカウンシルの現在地」と題して沖縄、東京、大阪の3域の活動を振り返るトークセッションと、それぞれの地域でのアーツカウンシルの活動、またAC-netの役割について考えるディスカッションを行いました。

神奈川県障害者 芸術文化活動センター 協力委員会への参加

支援センターの運営方針や、神奈川県内の多分野の関係者によるネットワーク形成について検討する協力委員会に参加しました。年2回開催された会議では、ワークショップ実施施設の状況共有、福祉施設における芸術文化活動の課題、今後の事業方針について議論しました。

公益社団法人 全国公立文化施設協会 専門人材バンク (劇場・音楽堂等団体)への登録

公益社団法人全国公立文化施設協会が運営する「専門人材バンク」に登録しました。鑑賞サポート等の取組について、事業見学の受入れや研修会講師、事例紹介、情報交換等を通じて情報発信を行うとともに、全国の劇場・音楽堂等との連携やネットワークづくりにつなげています。

「社会と芸術をつなぐ窓口」として、劇場・音楽堂等にとどまらず、学校や地域コミュニティ、福祉施設など多様な場所へ芸術文化を届けることに大きな意義があります。「専門人材育成プログラム」、「学校教育へのアプローチ」、「インクルーシブアプローチ」、「地域との連携づくり」という4つの柱を軸に、共生共創事業(神奈川県主催)にも取り組み、子ども、シニア、障害のある方、鑑賞会会の少ない家庭など、幅広い人々が芸術に参加し、楽しむ機会の創出を進めています。

こうした取組を通じて、芸術文化が一部の人のためのものではなく、誰もが関わることでできる身近な存在であることを発信しています。今後も、これまでの取組で培った経験や課題を活かし、より多くの方が安心して芸術文化に触れられる環境づくりに取り組んでまいります。劇場・音楽堂等の内外、世代や立場を越えたつながりを深め、地域のにぎわいや共生社会の実現に向けて、芸術文化の力を継続的に届けてまいります。





横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」



綾瀬シニア劇団 Hale

Photo：泉山朗士

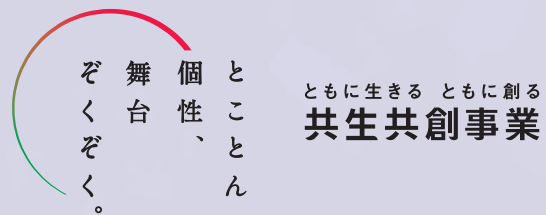


小田原シニア劇団チリアクオールディーズ



チャレンジ・オブ・ザ・シルバー

Photo：加藤 甫



ともに生きる ともに創る 共生共創事業

横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」



横須賀を拠点に活動する「劇団河童座」の横田和弘がプロジェクトリーダーを務める劇団です。劇団員がキャストのみならずスタッフとしても参加しながら、基礎トレーニングやオリジナル作品の創作を行っています。2025年度は自主公演として2作品を上演しました。

【公演】
2025年7月26日(土)・27日(日) 横須賀市立青少年会館ホール
第10回公演レトロシアター vol. III『竹取物語より かぐや姫』『泣いた赤鬼』※自主公演
2026年3月7日(土)・8日(日) ヨコスカ・ペイサイド・ポケット
第11回公演『賢治とトシの銀河鉄道』※自主公演

小田原シニア劇団 チリアクオールディーズ



小田原を拠点に活動する劇団「チリアクターズ」を主宰する演出家・俳優・劇作家の大島寛史がプロジェクトリーダーを務める劇団です。2025年度は学校を舞台にしたサイコホラーのオリジナル作品を上演しました。また劇団員自らが考えたシーンを取り入れる等、新たな創作方法にも挑戦しました。

【公演】
2025年12月13日(土) 小田原市生涯学習センターけやき ホール 成果発表公演『血と歯と眼』

神奈川県あそび歌プロジェクト 『世界のうたとあそぼう!』



世界の「あそび歌」を通じて、多文化の魅力を発信しています。リサーチした歌を誰でも楽しめるよう歌詞や振付をアレンジし、遊び方や歌のストーリーや文化背景を映像とデジタルリーフレットで紹介してきました。プロジェクトメンバーの振付家・ホナガヨウコと音楽家・3日満月(権頭真由、佐藤公哉)と共に2025年度はワークショップ実施や集めたあそび歌の映像を公開しました。

【ワークショップ】全5回実施
横浜市(ノースポートモール／東京横浜独逸学園) 小田原市(小田原市立富水小学校)
藤沢市(フジサワ名店ビル6階スタジオ(旧イベントホール))
【映像】
やってみよう!世界のあそび歌 第1弾 やってみよう!世界のあそび歌 第2弾

神奈川県あそび歌プロジェクト『世界のうたとあそぼう!』



共生共創事業



綾瀬シニア劇団 Hale



俳優・演出家の倉品淳子プロジェクトリーダーに、劇団員全員がクリエイターであることを目標として、身近な事柄や話題を用いた、人生経験による説得力や存在感を活かす構成演劇を創作しています。2025年度は宮澤賢治の名作『銀河鉄道の夜』を、セーラー服と学ランに身を包んだシニアたちがユーモアたっぷりに再構成しました。

【公演】
2025年12月13日(土)・14日(日) <全3回>
横浜にぎわい座 のげシャール 第6回公演「Hale版 ジョバンニの牛乳」

チャレンジ・オブ・ザ・シルバー



世界の第一線で活躍してきたダンサー・安藤洋子とシニアたちが、新たなダンス表現を創り出すプロジェクトです。2025年度は、身体の学びに重点をおいた従来のワークショップに加え、クリエーションを継続して行うワークショップに年間を通じて取り組みました。さらに、その成果を広く発信する機会として「体験型ダンスイベント」を実施しました。

【イベント】
2026年1月30日(金)・31日(土) KAAT 神奈川芸術劇場<大スタジオ>「シニアのための体験型ダンスイベント」
【ワークショップ】全21回実施
横浜市(孝道山 孝順ホール／大黒堂会館 大広間) 逗子市(逗子文化プラザさざなみホール)
湯河原町(湯河原町防災コミュニティセンター) 真鶴町(情報センター真鶴)

精神障害を考える 演劇ワークショップ・プロジェクト



演出家・多田淳之介、音楽家・西井夕紀子、精神疾患をかかえる人たちの声や表現を発信する活動グループ「OUTBACKプロジェクト」が、県内の精神科病院でワークショップを行い、パフォーマンスを創作するプロジェクトです。今年度は「食事」をテーマにワークショップで交流し、食にまつわる思いやエピソードを演劇と音楽で編み直し、ディナーショー仕立てのパフォーマンスにして上演しました。

【公演】
2026年3月1日(日) Art Center NEW 「IKIZAMA ミュージックでいなーしー」
【ワークショップ】全7回実施
横浜市(紫雲会横浜病院／神奈川県立精神医療センター) 川崎市(慶神会武田病院)

精神障害を考える演劇ワークショップ・プロジェクト

Photo：橋本貴雄



『音の探検隊』



打楽器奏者の若鍋久美子、ボーカリストの伊神柚子を中心としたアーティストが、様々な場所に向き、即興的な音のやり取りを重ねるワークショッププロジェクトです。2025年度は、(KAAT フレンドシッププログラム)KAAT マルシェにて、その場で出会った人達と音を奏で、聞きあうワークショップを行いました。また、2ヶ所の福祉施設で複数回ワークショップを行い、その様子を映像にまとめました。

【ワークショップ】全11回実施
横浜市(KAAT 神奈川芸術劇場<アトリウム>) 鎌倉市(多機能型事業所 LEO)
平塚市(ソーレ平塚 ソーレ平塚地域支援センターケアセンター)
【映像】
『音の探検隊 2025 | 音と出会い、自分をひらくワークショップ』

20号 「表現する喜びと可能性を分かち合う」

「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール」が主催するダンスコンテストを特集しました。笑いあり涙ありの、参加者同士が刺激し合う挑戦の場です。ダンスコンテストに出場した2団体にも日頃の活動や思いを取材しました。



共生共創通信

21号 「言葉の壁による孤独や孤立を防ぐ」

外国人のための介護予防教室「SIEMPRE GENKI(シエンプレ ゲンキ)」を特集しました。スペイン語と日本語での会話を交え、体操や脳トレに取り組んでいます。健康維持だけでなく「家から出て人と交流し、笑い合うこと」を大事に活動している様子を取材しました。



調査研究業務

神奈川ゆかりのアーティスト、演目、文化イベント等の中から共生社会の実現または未病改善を意識した舞台公演等が可能なコンテンツを幅広く調査・発掘しました。2025年度は、県内6団体、都内2団体についての調査を実施し、報告書を作成しました。

神奈川県内の文化事業に対する 助言や実施確認等

神奈川県補助金交付団体等が実施する文化事業の現地確認等を実施しました。

特別公演『みんなのスマイル・コンサート』

